

夜を歩けよ、メロス

葦重 智

【登場人物】

男 (以下 ●と記載)

八谷文博 (はちやふみひろ) 54歳 会社員

【状況】

2022年3月 午前5時ころ 霞ヶ浦の土手沿いの遊歩道
ウルトラウォーキング霞ヶ浦のイベントでの話

舞台装置は一切なし。

暗闇の中、遠くから男の人影が近づいてくる。

ヘッドライトと、LEDアクセサリの灯りを纏っているが
表情はよく見えない。

舞台中央に来て男は歩き続けている

(ここからは演者は「その場で足踏み」をしているだけ)

ただただ歩いている

息遣いしか聞こえない

何かぶつぶつ口になっているが

本人も誰かに伝えるつもりでないから、はっきりしていない
しばらく聴いているとなんとなく、聞こえてくる

● しんぞい

しばらく、「しんぞい」しか言っていない。

舞台照明は暗い夜のイメージとなる。

歩きながら、マスクをおろして大きく息をする。

そして、腕時計を見る

● もう5時か・・・

スタートしてから・・・16時間？
あー、しんど・・・
さすがに、もう70キロは歩いたろ？
でもまだ 50キロくらいあるんだ・・・

大きくため息

● 117キロつてき、とんでもねえよな。
制限時間30時間つてのもわかるわ。
・・・あと14時間か・・・
えっと、14時間であと50キロ・・・つてことは、
平均時速4キロで56キロ、うわあ、ぎりぎりかあ！
途中、休憩もあるからな・・・

● 次のチェックポイントは・・・まだか？
たしか、ファミマだよな・・・
なんか、全然ありそうな気配無いなあ。
何にも見えねえ、真っ暗・・・

間（しげらぐ歩いている）

● （上手側見て）にしても、でっけえな、霞ヶ浦。もう海だよ、海。
夜だから、なおさらわかんねえ。
（正面）ずーっと土手、「土手」
（下手）で、こっちは、ずーっと畑、「畑」
何時間もずーっと同じ景色だよ！

間（歩き続ける）

● ここまでしんどいとは思わなかった。
霞ヶ浦一周、117キロ、
制限時間30時間のウルトラウオーキング！
くー、シビレるねー！
なんで、参加しちまったんだろ、俺。
ま、参加したからには、完歩を目指さないとな。

● 会社のイベントと重ならなかつたら、絶対参加しなかつたな。健康のための部署対抗ウォーキングイベントって、誰だよ、部署ごとに歩数を競おう！だなんて考えたやつ。

● またアプリがよくできているんだよ。ずるいな。がんばって歩いてランキングあげたのに、ちよつと目を離すと知らないヤツに抜かされるって、しかもそれをいちいち通知してくんだから、ムカつくよな。ついついがんばって余計に歩いちゃうじゃねえか。

● しかし、上位のやつら、1日平均3万歩とかおかしいだろう？毎日そんなに頑張れるなら、仕事で頑張れよ。そんなにムキになって歩くことねえじゃねえか！

● いやいや、俺も同じじゃねえか！
いかなあ。なんか余裕無えぞ。
リラックス。リラックス。
あせらず、あわてず、あきらめず、あてにせず！
歩くことに集中しよ！

● しんど・・・
あー、しんど・・・

● 何か楽しいことを考えよう、うん！

間
しばし無言の後、突然笑い出す。

● いやいやいやいや、それは無いって。
さすがに、そうはならないだろう。
でも、いいな、うん。ははははは！

ふと我に返る

● 何、やってるんだ、俺？
アブナイやつだよ。

いかん、いかん。別のことを考えよう。

間

なんか、あったな。こうやってずっと歩き続ける主人公の話。なんだろう、そういうの、あったよなあ。

あ、あれだ。そうそう。「復活の日」！

「復活の日」の草刈正雄だ！

……って、もう40年も前の映画じゃん。

俺が10代の頃に観たやつだ。

でも、今考えたらすごい映画だったよな。殺人ウイルスが世界中に蔓延して

人類がほとんど滅びちゃうんだから。あれ、怖かったな。

病院は医療崩壊を起こすわ、

路上には死体の山が築かれ、それを自衛隊が焼いている。

まさに地獄絵図！

でも、南極だけはウイルスが活動できないから、

観測隊員達だけは生き延びるんだよな。

人類のサバイバルの始まりだ。

でも、さらに悪い事が重なるんだ。

観測データから、近々アメリカで

大地震が起きることを予測した。

そりや地震が起きても人がいないから問題ないと思っていたら、

アメリカには自動報復システムってのがあって、

地震を敵の核ミサイルの攻撃と勘違いして、

敵国に核ミサイルが自動的に発射されてしまう。

そして、敵国も同じようなシステムを持っていて

その標的に南極基地も入っている事がわかった。

主人公は自動報復システムを止めるべく、

ワシントンのホワイトハウスまで行くんだが、

でも、ぎりぎり間に合わず、大地震が起きて

世界中に核ミサイルが発射されてしまった。

19XX年、地球は核の炎に包まれた。

しっかし、ウイルス、大地震、核ミサイルって
どんだけ人類をイジメればいいんだよ、小松左京先生！

でき、主人公はシェルターの中だったので助かった。
放射能汚染も治まって、地上に出たものの
世界は本当に誰もいない世界になっちまったんだ。
でも、唯一の望みが

南極基地から避難した仲間がいるかもしれない。
アメリカのワシントンから、チリの最南端まで
歩いていくんだ。

いやはやどんだけかかるんだよ。
それに比べたら、117キロなんてちよろいよな。
がんばろ！

あれ、あれ、あのシーン好き！

どこがメキシコあたりの街で

ミイラ化した遺体と会話するんだよな。

もちろんミイラは何もしゃべらない。

互いに無言だけど、字幕で会話が流れるんだよな

「どこまで行くのですか」

「仲間に会いに行くのです」って

そうだよな。ずっとひとりで歩き続けてたんだからな。

誰とも会話してないんだよ。言葉も発してないんだよ。

誰でもいいから話したくなるっつてもんだよ。

誰もいないっつてほんとツライよな。

あと、ラストがいいんだよな。

長い長い旅の果てで、恋人に再会。

オリヴィア・ハッセルだっけ。美人だよな。

で、がーって二人が抱き合ったあとに、

主人公が本当に久しぶりに言葉を発するんだよ。

「ライフ・イズ・ビューティフル」

人生はすばらしい！ いいよなあ。

そんな感動の人生の瞬間を味わいたいよなあ。

間

● 俺の方は、ゴールに待っているヤツなんではないし。オリヴィア・ハッセーが待っていてくれたらなー！それに、世界が減びていない方が、むしろ残酷だよな。孤立感がさらに増し増し！ ちつくしょー！世界、滅びちまえ！

●

いやいや、何言ってるんだ、俺！あ、あれだな。むしろ「走れメロス」だな。時間制限もあるし。太宰治だっけ？ どんだけメロスをイジメたらいんだよ。ほんと、嫌なヤツ・・・

●

「歩け、メロス！」
なんか間抜けだよな。走れだとカッコいいのに、えらい違いだ。なんで、「歩け」だと、ダサくなるんだろ？

間

●

しっかし、えらいよな、メロス。友情のために命を賭けて、走っちゃうんだもんな。俺にはできねえ。

ま、そもそも友達いないし、命かけるなんて、とんでもねえ・・・

●

でも、あれ、ツッコミどころ多いんだよな。だいたいさー、身代わりになった親友の処刑の期限が迫っているっていうのに、妹の結婚式に出られるっていう、その神経が図太いよな。しかも、そのあとの宴会まで出るって、どういうこと？で、その晩泊まって、朝一番なんかに出かけるから、そりゃ戻ってくるのがギリギリになるよ。もっと早くから出かければ、余裕だったろうに？

●

夜も走れよ、メロス！ 以上！

● いやいや、夜はさすがに走れないか・・・
でも、歩けるよな。

早くから歩けば、そもそも走る必要もないわけだし・・・
やっぱ、余裕をもったスケジュールが大事だよ。

● 結論！ メロスはスケジュール管理がなってない！ 以上！

問

● なんじゃ、これ！

● いやいや、デイスってばかりもダメだな。

● いいチームリーダーってのは、ダメ出しもするけど、
それ以上に褒めることもしないと。

褒め上手たれ！ って、誰か言っていたよな。

でも、俺、褒めるの苦手だからな。

よし、メロスのいいところを褒めてみるか！

● そう、メロスは偉いんだよ。うん、偉い。

たしかにな、やったことは馬鹿なのかもしれないけれど、

でも、妹の結婚式をちゃんとやってあげたんだよな。

王様とのあんな理不尽な約束も守り、

親友のために命がけで頑張ったんだ。

途中で投げ出さず、すべてやりきったんだからな。

そこは褒めてやらないとな。うん。

偉い。うん、偉いぞ、メロス！

● でもな、そもそも、妹の結婚式が控えているのに、
王様に盾突くってところが、うかつだよな。

でき、妹の結婚式に出たいから、処刑の延期を要求したり

自分の身代わりに、親友を無断で指名するってのがひでえよな。

そりゃ、親友からしてみたら「何、それ」だよな。・

ちったあ反省して欲しいね、メロス！ 以上！

● いや、だから、褒めないと。

いかな、俺。

● しっかし今だったら、SNSで大炎上案件間違いなしだよな。王様を批判するよりも、メロスやさ、妹や親友が炎上するよな。プライバシー晒されて、罵詈雑言や、いわれのない攻撃だらけ。あいつら、容赦ねえよな。どんだけイジメたらいんだよ！ まったく、自分より弱いとか、言い返せないとかわかったら、なんであんなに酷い言葉を言えるのかな、死ねばいいのに！

間（水を飲む）

● しっかし、誰もいないな。

歩きながら後ろを振り返る。
今度は前を向いて目をこらす。

● ほんと誰もいない。

前のチェックポイント出してから、誰も見かけてないよな。

● 前も真っ暗、後ろも真っ暗。

街灯もねえし、車も通らないときたもんだ。

ふと、歩きながら後ろを見る。何も無い。

しばらく歩くと、また振り返る。

でも、何も見つからない。

前の方も見るが、やはり何も無いようだ。

● ほんと誰もいないよ。世界滅びちまったか？

● 参加者200人はいるんだろ？

あれだよな、1人くらいは見えてもいいだろうに。

● コース、合ってるよな。

もしかして、道間違った？ いや、そんなことはないだろう。ぐるっと一周するんだが。ずっと一本道なわけだし、とにかくこつち（上手側）に霞ヶ浦が見えているんだから、

間違っではないはずだよな。
まあ、歩くしかねえよな。

● 間

まったく俺は、夜中にひとりで何やっているんだ？
歩いている・・・
そうだよ、歩いているよ。ただ歩くだけだよ。
なんで俺はこんなにムキになってるんだ。

● だいたいさ、このイベント参加するって

チームのみんなに言ったら、普通はさ、

「すごいですね」とか「頑張ってください」とかじゃねえのか？
違うんだよな。なんかドン引きしてたよな。

「マジですか？」みたいな。

● 牛村のヤロウなんか、

「気が狂ってますね」とか言いやがった。

● 人の頑張りにケチつけんなよ。

● ったく、牛村よ。

● 何か言えばもーもーもーしか文句いわねえのに。

● デイスるんじゃないくて、褒めろよ。

● 俺だって褒められたいんだよ。

● チームリーダーだって褒められたいんだよ。

● 俺はこうやってチームのための117キロだよ。

● ほんと、こっちこそ、もー、もーだよ。

● 間

● いや、別にさ、

● 褒められたいから参加したってわけでもねえけどな。

●

● コロナでずっと在宅で、リモートでき、
どこにも行かず、ずっと家にいてさ、
なんか、このままじゃいけないって
こうやって、がんばっているんだ。

● 間

しかし、考え甘かったな。予想以上にしんどいよ。まだまだ続くんだよな、これが。ストレス、半端ねえ！

● そうか、メロスだってそうだよな。ずっとストレスだよ。

間に合うかどうかもわからないし、親友の命もかかっている。しかも、妹の結婚式の間もずつーとだよ。こりゃ、つらいよ、ほんと。

● いや、でも、メロスも悪いよ。

なんで、そんな理不尽な賭けを王様とやっちゃうわけ？ そういう契約はいかんよな。ブラックだよ。

王様がそんな悪趣味な事やってるの、家来は止められないの？ コンプライアンスはどーなんつてんの？ ブラックだよ。それでさ、親友も親友だよ。

まっとうな判断能力、欠如してない？

ブラックだよ、ブラック！ みんなおかしいよ。

結論、みんなおかしくて、みんな変！ 以上！

● 間

● いやいや、俺が変だ。俺がおかしくなってきた。

いかな・・・落ち着け、俺。

● まあな、メロスの考えが甘いというのも、当たり前っちゃあ当たり前だよな。

だって、若者だよ、メロスは。オッサンじゃねえんだろ？ 若さゆえの過ちだよ。誰にでもあるだろ？

最初から完璧な人間なんていねえんだよ。

● ほんと、メロスはえらいヤツだよ。

ただひたすらに妹の幸せを願ってるんだよ。純粹だよ。で、街に行ったら、王様がひどいことばっかやってる。

純粹ゆえに、文句言つたと。
で、捕まった。すぐに処刑しちゃう王様だよ。
そこはちよつと正義感強すぎるんとちゃうかな？

ま、ここまではいい。ここからだ。
処刑されることには納得しつつも、
妹の結婚式があるから、処刑を待ってくれと頼むんだよな。
妹想いなのはいいけどね、でも、処刑の日を延ばす代わりに、
親友を人質に差し出すんだよな。
しかも、その親友には無断で。
さっきの正義感とはえらい違いだよ？
わけわからんよ！

いや、さてよ、もしかしたら本当は違うのかもな？
この理不尽な条件は王様の提案かもしれないな？
ありうるよな。すぐに処刑しちゃう悪趣味な奴なんだから。
「そんなに妹が大事なら、

お前も大事なものを差し出せ、メロス！
ならば処刑の日を待ってやってもいいぞ」とかな。
で、仕方なく親友を人質に差し出すメロス。
うわっ、エグう！ 王様ひつでえ！
でも太宰だからな。ありえる展開だろ。太宰だしな。

いやいや、太宰なら、もっとエグいのもありえるな。
あ、そうか！ いや、これは怖い。
実はこれは親友に対するメロスの嫌がらせ、復讐かもしれない。
そうだよ。そうに違いない。
実は妹はかつて親友に好意を寄せていた。
でも親友は、妹の純粹な乙女心を弄び、深く傷つけた。
妹に対して酷い仕打ちをしたに違いない。
妹がようやく過去を忘れ、幸せをつかむ時、
メロスは、その親友に復讐を仕掛けずにはいらなかった。
親友との友情もこの復讐のための嘘だったのかもしれない。
おう、これはいいぞ。ドラマになる。
メロスは親友に死の恐怖と絶望を与えるために、
戻るなんて考えて無かったのかも。

うわ、怖っ！ メロス、怖っ！
とんでもないヤツだ！ サイコパスや！
あ、でも太宰だからな。ありえるだろ。

で、あれだ、妹の結婚式も終わり、眠っている時にだよ、
夢の中でメロスの良心がささやくんだよ。

「これで満足したか、メロス？」

だが妹が親友の処刑を知った時、妹が悲しむかもしれないと
考えたことはないか？

妹が望んでいない復讐は、お前の独りよがりではないか？」
ああ、親友を裏切っても、それで妹が幸せになるわけじゃない
これじゃあいけないと考えて、朝一番で慌てて走り始めたよ。

これなら筋が通る。

おおっ！ 俺って天才かも。太宰を越えたかも？

それで、必死になって走って、

処刑ギリギリのところまで間に合ったよ。

でも、これが後世では、美談として伝わっちゃったよ。

それが「走れメロス」の真実である。 以上！

間

なにが。「以上！」だよ。

こんなの俺のただの妄想だよ。

そもそも「走れメロス」は実話じゃねえんだ。

太宰の創作なんだからさ、事実も真実もねえんだよ。

何が正しいってわけでもねえんだし、ぜーんぶ嘘！

さらに俺が嘘を重ねただけだ。

俺、ひとりだけの自己満足だし、

こんなこと考えても、そもそも誰にも伝わらないんだよ。

誰もいないんだから。

ゴールしてから伝えても、伝わるかわかんねえし、

いや、ゴールできるかも、わかんねえし。

なにやってんだ、俺。

はー。

スマホをズボンのポケットから取り出す。

● やべ、嘘だろ。バッテリーねえよ。
やっぱGPSマップ、バッテリー食うよなあ。
充電もできねえし、なんてこった！

● あー、こういう時に、音楽かけるとかしたら、
少しは気がまぎれるって言うのに。ちくしょー、

スマホをしまっ。
突然、男が叫ぶ

● あー、もうやだ。やだ。やだやだ。
俺、なんでこんなこと やってんだ？

問

● あー、しんど

● なんだろうねー。もうちよつといいことあつてもいいじゃん。
こんなに頑張ってるんだからさ。
メロスだつてさ、最後には「賞賛」を勝ち取ったんだよ。
俺もさ、なんか勝ち取りたいよ。
チームのみんなが、凄いですって言ってくれてもいいじゃん。
牛村が尊敬のまなざしで俺を見てもいいじゃん。
いいじゃん、いいじゃん。

● でも、そうはなんないだろうな。
それこそ、「気でも違ったんですか」とか言われそうだな。
あ、でも逆に「大丈夫ですか？」って言われるのも嫌だな。
大丈夫じゃなくても、つい「大丈夫！」って返しちゃうよ。
本当に大丈夫でない限りは、どんなにしんどくても
「大丈夫」って言っちゃまうものなんだから。
だから、ほんと、しんどい。しんどいよ。
あー、でも、俺、そんなに人気者キャラじゃないしな。

そんな心配もされないか。
こんなことして、ドン引きさせるキャラなんだからな。

間

● なにもさ、こんな何にもないおっさんを
いじめることないじゃん。
いや、たしかに参加を申し込んだのは俺だけだよ。
こんなに過酷なコースにすることはないじゃん。

● ああ、メロスも可哀そうだよな。
作者の太宰のせいで、あんな難儀な目にあつてさ、
絶対性格ひねくれているよ、太宰！

● メロスさー、なんで王様に楯突いた？
なんで親友を身代わりに差し出す？
しかも親友には何の断りも無しなんて。
身勝手にもほどがあるよ。
妹の結婚式だけでなく、そのあとの宴まで参加するって
もつと早くに出かけろよ
戻る最中に初めて裏切りがよぎったって？
そりゃ嘘だろ？ それまで本気で戻るつもりだったのか？
なんか嘘っぽいんだよな。

● あー、いかん、いかん、いかん、いかん！
まただ。また、ネガティブになってきた。
リラックス。リラックス。
あせらず、あわてず、あきらめず、あてにせず！

間
(水を飲む)

● あー、ダメだ。
足、痛くなってきた。
これ、我慢の限界がきた。
「痛え！」
これ口にしないとダメなやつだ。痛えよ。

絶対、足の裏にマメできているよな。それも両足。
結構でかいやつかな。歩くとたびに痛え。
腿も脛も痛いし、膝もガクガクだし、股関節もなんか変だ。
痛え……

寒いしき、だるいしき、眠いしき、
なんもいいことないじゃん。
痛いしき、暗いしき、誰もいないしき、
なんもいいことないじゃん。
寂しいしき、つらいしき、むなしいしき、
なんもいいことないじゃん。
もう死ぬ、死ぬ、死ぬよ、こりや。

● なんて、おれ、こんなことやってんの？
● なんの意味があるの？
● これって、ただツライだけじゃねえのか？
● ツライ事が、ただ続くだけじゃないのか？
● これでなんかいい事でもあるのか？

● 次で……次のチェックポイントでリタイアしてもいいよな。

● 別にいいよな。ここまで頑張ったんだ。
● 恥ずかしい事じゃないよ。

間（大きなため息）

● ひとりだよ。
● 咳をしてもひとりだよ。
● ネガティブになってもひとりだよ。
● 誰も相手にしない。俺なんかに興味もない。
● スルーだよ、スルー。
● というか、誰も俺がここにいる事を知らない。
● なにこれ？ 何の罰ゲーム？ きつついよな。

● なんだよ！ なんでこんな目に遭うんだよ。
● 俺が何か悪い事をしたのか？
● 迷惑かけたのか？ なんもしてないよ。

なんも俺は関係ねえだろう、この世界には。
ほっとしてくれ！
でも、ひとりにしないでくれ！

間

● 太宰よお、お前もそうだったのか？
お前もずっとこんな暗闇の中を歩いてきたのか？
ひたすら書き続けなければならないストレス。
しかも、ゴールがどこなのかもわからない。
そんな暗闇をずっと歩いてきたのか？
暗くて、寒くて、さびしくて、つらくて、
そんな中をずっと歩いてきたのか？

● 死んだように生きるのが嫌だったのか？
だから、極限状態の中で生きる実感を味わいたかったのか？
「明日になっても生き延びている」じゃない。
「今をとことん生きて、味わいたい」んだよな。
ノット サバイブ バット リブ だよ。
ノット サバイブ バット リブ
ノット サバイブ バット リブ
ノット サバイブ バット リブ

● んでもって、ラブだよ、ラブ。
ライフイズビューティフルだよ。
復活の日だよ。
草刈正雄だよ。オリヴィア・ハッセーだよ。
ワシントンから南米大陸最南端目指して歩くんだよ。
それに比べりゃ、大したことねえだろう。
何、弱気になってんだよ、！
もーもーだよ。

照明 「」から朝日がさして明るくなってくる（かなりゆっくり）

男、歩き続ける。その目は正面をとらえ、笑顔に。

● ひとりぼっちなのは、当たり前だよ。
この世界で生きていく最小単位は、自分ひとりなんだから。
当たり前のことなんだよ。

● ああ、そうなんだ。俺は無力だ。
ひとりでは何にもできない。
生まれてきて、すみません。
迷惑かけて、すみません。

そんな俺だけど、この世界にいることを許してくれて感謝だよ。
ありがとう、みんな！
ありがとう、世界！
ありがとう！！
感謝、感謝だよ！

問。
突然キレル！

● な、わけねえだろ！（絶叫）

しばらく、無言。少しずつ、喋り始める。

● なにムシのいい事言っつて、救われた気になってるんだよ。
感謝するにも、まず感謝できる俺自身が存在しなきゃ。
まずは自分だよ。俺、ありきだよ。
そりゃ、迷惑かけるよ！ だつて生まれて来ちまったんだから。
世界よりもまず自分を先に救うよ。
でも、やりかたはわからない。
分かっていることは、とりあえず歩くしかねえんだよ。
止まったらそこで終わりだからな。
どんなに泣こうが、どんなにわめこうが、
つらかろうが、いたかろうが、さびしかろうが、
まずは歩くことしかできねえんだよ。

● 人生と同じだ。
ただツライことだけが続くだけ。
そんな都合よくドラマチックなことなんて起きやしない。

オリヴィア・ハッセーは待っててはくれないんだ。
何を期待してるんだよ。
期待しても、実際には起きたりはしない。
むしろ、遭いたくない事だらけだ。
こんなオッサンが世界の隅っこでつぶやいたところで
世界が変わるわけじゃない。
世界を救えるわけじゃない。
それどころか、自分ひとりも救うことができない。
無力なんだよ。思いあがるな！
メロスが王様を改心させたのは、ファンタジーなんだ。
友情を勝ち取ったなんて、作り話だ。
太宰の祈りだよ。

●
どうやったらいいのか、わかんねえんだよ。
そうだよ、みんなわかんねえ。
俺もわかんねえ。誰もわかんねえんだよ。
太宰もわかんないんだよ。
わかってたら、入水自殺なんてするわけないんだよ。
さびしいんだよ。つらいんだよ。
誰にもわかってもらえないんだよ。
伝えようとしても、伝わらないのがつらいんだよ。
伝える相手がいないのがつらいんだよ。
ちつくしろう。

間

●
おおおおお、お日様が出て来た？
朝か！ やったぞ。

●
はー、腹減った。
そうか、俺生きている。
生きているから、腹が減るんだよ。
生きているから、疲れているんだよ。
生きているから、足が痛いんだよ。
生きているから、弱音をはけるんだ、まだ。

● にしても、いっぱい毒吐いたなあ。なんか、スッキリした。デトックスだよ。ウオーキング デトックスだ。

まあ、ひとりで歩いたから、これだけぼやけたんだよな。誰か聞いていたら、俺死んじゃうよ。

生きるためにぼやいたのに、死にたくはないよ。普段思っけていても、絶対口に出せずに我慢したことを思いつき言葉にできたんだ。

これ、走ってたら、ぼやくこともできない。

苦しさを抱え続けたままじゃ、もたないよ。

我慢し続けたらもたないよ。

いいか、メロス！ 黙って走ってため込むな！

毒吐け！ 王様や、親友や、妹や、この世界に対する

いろんなことを吐き出しちまえ。

ボヤキながらも歩く方がいいぞ。夜はいいぞ！

夜を歩けよ。夜歩きサイコー！

テンション高く叫ぶが、ふと我に返る。

● 何、やってるんだ、俺？

アブナイやつだよ。いかん、いかん。

遠くにファミマを見つける男。

● あれ、ファミマじゃねえ？ チェックポイント来た！

やった、やったよ。おお・・・

ヘッドライトを外す

● あれ？ あれ、誰か歩いている？

あんな遠くにいたんだ。

聞かれてねえよな。

● あの人もひとりですつと歩いていたのかな？

がんばったんだな、あの人も。

俺もがんばろう。

● (ぼそっと) ライフ・イズ・ビューティフル。

● リラックス。リラックス。
リラックス。リラックス。

あせらず、あわてず、あきらめず、あてにせず！
あせらず、あわてず、あきらめず、あてにせず！

なお、男、歩き続ける。

突然、ストップモーションで止まる

その瞬間に、照明 舞台全体が明るくなる。

男、姿勢を正して、一礼。

舞台上から、去る。

終わり

参考

太宰治「走れメロス」

映画「復活の日」(1980年製作)